



視察報告

立憲・国民・無所属の会さいたま市議団は、さいたま市への政策提言を行うため、

政務活動費を使用した視察を適宜行なっています。

視察を通じ、どんな知見が得られ、

それをさいたま市にどのように反映していくかについて市民の皆様への説明責任を果たすべく、

本ホームページ上で視察報告を公表します。

「会派合流・会派名変更前のデータも公表しています。」

2008/11/04

【民主党 さいたま市議団】 札幌市・小樽市視察

視察報告

日時：2008年5月22日（木）・23日（金）

参加者：神崎功・高柳俊哉

視察先：北海道①札幌市・②小樽市

●調査・研究テーマ「財団法人 札幌国際プラザ について」

目的<活動とコンベンション、道との連携等について>

札幌市が出資している財団法人 札幌国際プラザ について職員から意見聴取し、調査・研究した。

「成果」

札幌市は北海道の中心であり、北海道内での関するイベントの窓口は札幌市に来るという意識。

札幌市だけのイベントに対応するつもりはない。

アジアからの観光客についての対応が必要。

コンベンションは国内については順繰りで回ってくる。

公営・民間施設との連携。（展示施設とホテル）。

東京事務所の活用。人とのつながりを重視。

一自治体の成果を求める市政ではなく、北海道全体を考えた姿勢には共感を覚えた。

コンベンション都市として実績があり、地理的特性を優位に生かして、イベント招致を行っている。

埼玉の中心としてのさいたま市という観点からも、

今後、コンベンション機能を考えるべきでは。

●調査・研究テーマ「観光のまちづくり について」

目的<①小樽観光の現状>

<②観光のまちづくりの具体的施策等>

<③日帰り通過型から宿泊型観光の取り組みについて>

<④各種団体との連携⑤今後の取り組みについて>

研究テーマについて、小樽市担当者（産業振興室・佐藤室長）からの意見聴取並びに関係団体の取り組みについて説明、質疑を行う。

「成果」

「観光都市」としての小樽は、昭和61年4月から約20年

が経過している。観光客数は平成11年、978万人（max）が平成18年は770万人に低下している。しかも平均滞在時間は昔は5～6時間、現在は2時間程度であり、昔のほうが滞在滞在時間が長かった。市内での宿泊施設の不足（バス1台全員が宿泊できるホテルが無い）などもあいまって、小樽市自体が飽きられてきたと言えるのではないかと。

観光で初めて訪問するのは、定番のところ。一回だけとリピートするところの差はある。運河について、歴史を語れる資料館がない。運河全体を俯瞰できないなどの課題があり、後者についてはタワー建設などのアイデアも必要。

佐藤氏は議会事務職への奉職経験もあり、資料に基づかない職員としての見地と経験に基づいた話しをいただき、如何に最小経費で小樽市へ観光客を呼び込むかとの熱意を感じた。最近のアジアの好景気を受けて、アジアからの外国人観光客を如何に受け入れるかという視点はさいたま市においても共通していると思われる。